

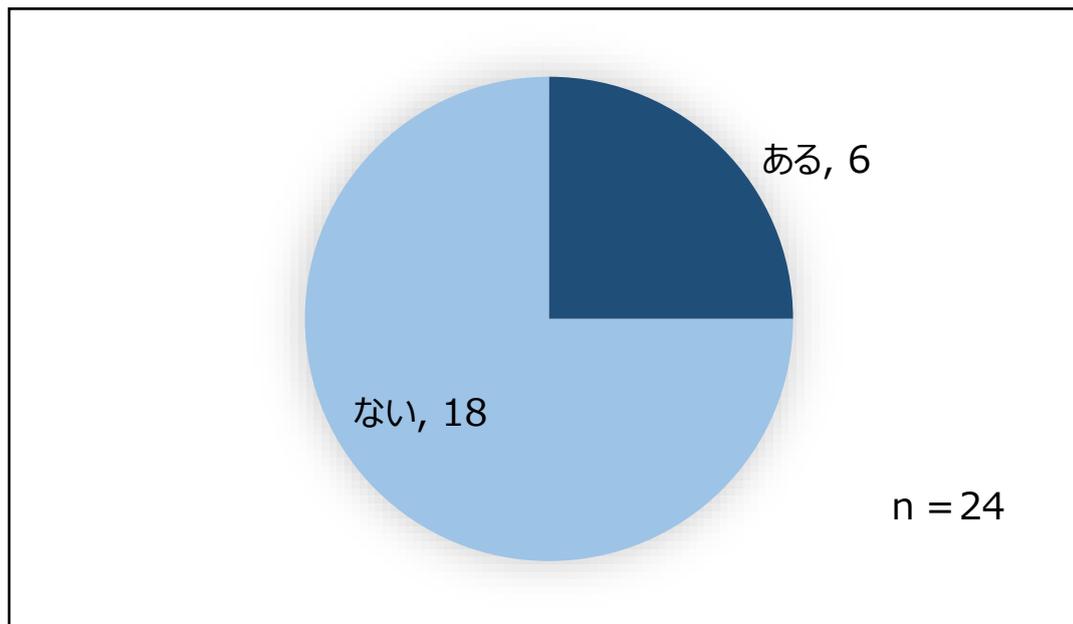
【災害時の各医療機関での取組に係るアンケート結果】

目的：各医療機関での災害時の取組について把握し、当協議会で情報共有を図る

対象：難病診療拠点病院、難病診療分野別拠点病院、難病医療協力病院の計24病院（回収率100%）

各医療機関からの回答を取りまとめた結果は以下のとおりです。

問1 災害時、在宅療養している難病患者に対して支援を行えるように、取り組んでいることはありますか。



問2（問1で取り組みが「ある」と回答された方にお聞きします。）

具体的にどのような取組を行っているかご記入ください。

- ・ 在宅療養患者で医療機器使用のリスト化があるが更新していない。
- ・ 併設の在宅部門である訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所においてもBCP（事業継続計画）を作成済である。大規模災害発生後も診療およびケアの継続が行えるよう準備をしている。また、鈴鹿市と連携し在宅療養中の要介護状態の方の避難や安否確認に関して協議を行っている。
- ・ 訪問リハビリや通所リハビリで関わっている利用者の一部は往診医やケアマネージャーが中心となって災害時の相談・準備を行っており、共有を受けている。
- ・ 訪問診療・看護契約について災害時に支援が必要と考えられる在宅療養患者のリストを作成している。年度毎や毎月更新し、新規利用者についても情報共有を行っている。
- ・ 随時オンライン情報システムで情報共有を図っている。
- ・ 平時より、年間スケジュールを作成し、レスパイト入院を利用いただき、災害等、有事の際にスムーズに受け入れ可能となるよう、家族や関係機関とコミュニケーションをとるようになっています。

問3 (すべての方にお聞きします。)

災害時、在宅療養している難病患者への支援を行うにあたり、課題と感じていることがあれば御教示ください。

●災害時の病院としての機能及び対応

- ・ 当院の災害時の機能として、災害拠点病院としての機能を果たす必要があるため、難病患者/非難病患者の区別がつけられないと思われる。難病患者独自の何か・・ということは、実際問題考えることは難しい。
- ・ 当院の外来患者では、在宅人工呼吸指導管理料を算定している患者はいない。しかし、短期入院患者には、主治医が、在宅診療医や他院であり、災害時の受け入れ調整依頼が来ることも予想され、地域の支援者との連携が必要だと考えるが、災害対策としては特に取り組めていない。当院は、災害拠点病院ではなく後方支援病院の位置づけであり、その中で難病患者にできる支援が院内でも明確にされてないところがある。
- ・ 医療機関と行政の責任範疇と、災害時の初期対応について
- ・ 災害時、病院としての役割が多い。
- ・ 災害時において、災害拠点病院としての役割が与えられるため、地域被災者に迅速な救命医療を提供することとなる。その中で難病患者への支援は限定的になる可能性がある。

●病院として在宅療養の難病患者の受入れ

- ・ 勤務している職員は、入院患者の支援に精一杯で他の支援まで手が回らない。
- ・ 電源確保以外の支援を求められても対応できない。
- ・ 難病基幹協力病院・地域支援病院として、在宅療養とされている呼吸器装着中の患者家族、在宅支援チームより電源確保の協力や避難的な入院の相談があるが、入院中の患者や緊急の患者が優先となるため協力を約束できないとお断りしています。とても心苦しいが病院としてどうしようもないというのが本音です。
- ・ 設備上の問題もあり、特定の病名の患者様しか受入ができていない。
- ・ かかりつけではない患者への対応(病歴や診療に関する情報収集の困難さ等)
- ・ 大きな混乱が予想される災害発生時に求められる適切な病床の確保、管理等。
- ・ 災害時当院の状況もどうなるかわからないため、まず入院患者を優先に病院機能を維持できるように考えたい。
- ・ 要介護者及び入院歴のある患者に関しては、オンライン情報システムで少しずつ情報共有できるよう働きかけているが、大きな病院でないため確実に病床を用意できるかは分からない。
- ・ 難病患者の受入は災害時に備え、平時からの連携を心掛けているが、普段は他の医療機関を利用されている難病患者など不特定の受け入れ要請があった場合、どこまで対応できるかが課題。
- ・ 年末の繁忙期(脳卒中や肺炎の方が多く入院する)については、災害時であってもすぐに入院できない可能性がある。

●病院のマンパワーや設備の課題

- ・ 設備の整備について
- ・ 長期停電時の酸素供給の確保
- ・ 薬の供給が止まってしまった場合の支援体制
- ・ 日常的に取り扱っていない医療機器(人工呼吸器等)の使用、管理について
- ・ 当院で行える医療行為に限界がある。(医師の問題、処置の問題、人工呼吸器や一部CVポートの対応不可等)
- ・ 入院患者の安全確保や対応にも不安がある中、在宅療養している難病患者の支援まで行えるのか、そのためのマンパワーが確保できるのかということが課題と感じている。

●在宅療養の難病患者の課題

- ・ 避難場所への移動や避難所生活での適応困難
- ・ 排泄ケアや食事提供の問題
- ・ 主介護者が高齢である場合も多く、災害発生時に自助力が弱い。
- ・ 患者が重症で避難所にたどり着く事ができない場合がある。

●病院からみた地域の課題

- ・ 当院かかりつけ患者のリスト化などは出来ていないために、災害時に支援を必要とする患者数などが分からない。
- ・ 各家庭で、どの程度、災害時の準備が行われているか把握していない。
- ・ 在宅療養している患者全体を把握しておらず、誰がどのような支援を必要としているかわからない。
- ・ 訪問看護やヘルパーが訪問できない場合の医療処置や介護をどのように対応していくか。
- ・ 地域として資源が少なく、対応できるマンパワーも少ない。
- ・ 院外の難病患者は、配慮が必要な方は、ホテルなどで優先的に対応できるよう対策を立てていただきたい。